

小麦奨励品種「あおばの恋」

古川農業試験場

1 取り上げた理由

本県の小麦主力品種「シラネコムギ」は作付面積の8割を占めるが、実需者からはめん用途としての加工適性が不十分との声があり、より適性の高い品種が求められている。また、成熟期が遅いため晩播大豆との作付け体系が困難であることが指摘されている。

「あおばの恋」は、硬質で製粉歩留が高く、麺色も良好で食感が良い。また、熟期が「シラネコムギ」より早い“早生”であり、収穫作業の分散や輪作など栽培の面からも有利なことから奨励品種に採用されたので普及技術とする。

2 普及技術

1) 来歴

「あおばの恋（関東128号）」は、平成2年に農業研究センター（現、作物研究所）において、良質・良色相を育種目標として「関東105号」と「Veery'S」のF₁を母、「西海171号」（後の「チクゴイズミ」）を父とした人工交配から育成された品種である。

2) 特性の概要

- a 出穂期、成熟期は「シラネコムギ」より早く、宮城県では“早生”である（表1）。
- b 穂長は「シラネコムギ」と同程度で、穂数は「シラネコムギ」より多い（表1）。
- c 耐倒伏性は“中”で、“強”の「シラネコムギ」よりやや劣る（表1）。
- d 収量性は「シラネコムギ」と同程度である（表1）。
- e 穂発芽性は“かなり難”で、“難”の「シラネコムギ」より穂発芽しにくい（表1）。
- f 赤かび病抵抗性は、「シラネコムギ」と同程度である（表1）。
- g 縞萎縮病抵抗性は「シラネコムギ」より強い“強”である（表1）。
- h 原麦の外観品質は「シラネコムギ」より優れる（表1）。
- i 粒は硬質で製粉歩留が高い（表1）。
- j アミロース含有率は「シラネコムギ」よりやや低く、麺の食感に優れ製麺適性が高い（表1、2）。

3) 対象地域等

- a 普及見込み地帯
山間高冷地を除く県下一円
- b 普及見込み面積
400ha

3 利活用の留意点

- 1) 耐倒伏性が“中”なので、施肥量は「シラネコムギ」と同程度を目安にそれを越えないようにする。
- 2) 穂発芽性は“かなり難”であるが、刈り遅れによる品質低下を避けるため適期収穫に努める。
- 3) 赤かび病抵抗性はシラネコムギ並みなので適期防除に努める。
- 4) 播性が低い特性を考慮し早播きをしない。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

麦類奨励品種決定調査 平成15～18年

新品種栽培法の早期確立 平成18年

麦類・大豆の加工適性を重視した品種選定と栽培法の確立 平成19年

2) 参考データ

表1 特性一覧

品種名	あおばの恋		組合せ 関東105号/Veery'S'//西海171号	
特性	長所 1. 成熟期が「シラネコムギ」より早い早生である。 2. 粒質は硬質で製粉歩留まりが高く、アミロース含有率がやや低いので製麺適性が優れる。 3. 穂発芽性が「かなり難」である。 4. 縞萎縮病抵抗性が「強」である。 短所 1. 耐倒伏性が「中」である。 2. 赤かび病抵抗性が「やや弱 ^{注3)} 」である。 3. うどんこ病抵抗性が「やや弱」である。			
試験地	宮城県古川農業試験場		現地調査	
試験年次	平成15～19年		平成17～19年	
品種名	あおばの恋	シラネコムギ	あおばの恋	シラネコムギ
播性の程度 ※	II	IV	-	-
出穂期(月・日)	4.30	5.8	5.11	5.15
成熟期(月・日)	6.25	6.29	6.27	7.1
稈長(cm)	81	86	77	80
穂長(cm)	7.8	7.6	7.6	8.2
穂数(本/m ²)	646	550	517	406
耐倒伏性	中	強	-	-
穂発芽性 ※	かなり難	難	-	-
うどん粉病抵抗性 ※	やや弱	やや強	-	-
赤かび病抵抗性 ※	やや弱	中	-	-
縞萎縮病抵抗性 ※	強	中	-	-
子実重(kg/a)	63.8	62.9	48.3	48.1
対標準比率(%)	101	100	100	100
容積重(g/l)	807	815	803	798
千粒重(g)	41.0	39.5	40.1	38.5
外観品質	中上	中中	中中	中中
粒質 ※	硬質(硝子質)	軟質(粉状質)	-	-
製粉歩留(%)	71.9	68.1	-	-
アミロース含有率(%) ※	26.5	28.0	-	-
ゆで麺(乾麺)の官能評価試験成績				
色(20点)	17.2	14.0	-	-
粘弾性(25点)	19.9	17.5	-	-
総合点(100点)	77.8	70.0	-	-

注1) ※部分は、育成地および特性検定地における評価である。

注2) 表中のデータは、全調査年数分の平均値である。また、現地調査は、全調査地点(県内3地点)の平均値である。

注3) 赤かび病の特性検定試験結果は「シラネコムギ」と同程度である。また、奨励品種検定調査におけるほ場発病程度でも「シラネコムギ」と同程度で「ゆきちから」より少ない。

表2 県内製麺メーカーS社による乾麺適性評価試験成績

品種名	年度	色 (20点)	外観 (15点)	かたさ (10点)	粘弾性 (25点)	滑らかさ (15点)	香り・味 (15点)	合計 (100点)
あおばの恋	平15	16.9	12.0	7.7	21.1	11.8	9.2	78.7
シラネコムギ		14.0	10.5	7.0	17.5	10.5	10.5	70.0
あおばの恋	平16	16.6	10.1	7.0	18.5	11.0	11.1	74.3
シラネコムギ		14.0	10.5	7.0	17.5	10.5	10.5	70.0
あおばの恋	平18	18.0	12.0	8.0	20.0	12.0	10.5	80.5
シラネコムギ		14.0	10.5	7.0	17.5	10.5	10.5	70.0
あおばの恋	平均	17.2	11.4	7.6	19.9	11.6	10.3	77.8
シラネコムギ		14.0	10.5	7.0	17.5	10.5	10.5	70.0

注) 古川農業試験場のサンプルを用いて、平成15～16年は試験用の少量粉での製麺、平成18年は製造ラインにより製麺した乾麺での評価による。

2) 発表論文等

なし